

NITS カフェ報告書	実施機関名・連携機関名 常葉大学大学院初等教育高度実践研究科
	セミナー名：【NITS カフェ in 常葉】 1人1台端末時代の教育を考える ーICTの効果的な活用方法を体験しようー
	開催日時：令和2年9月30日 14時～16時30分 開催場所：常葉大学静岡草薙キャンパス 常葉大学センター（静岡県静岡市駿河区弥生町6-1） 参加人数と参加者の属性：教育委員会関係7人、学校関係者19人、院生20人、専任教員10人

## テーマ：「1人1台端末時代の教育を考える」ーICTの効果的な活用方法を体験しようー

講師 乾 武司 氏 近畿大学附属高校教育改革推進室室長  
ファシリテーター及びiPad講師 野本 竜哉 氏 一般社団法人iOSコンソーシアム代表理事

GIGAスクール構想のもと、学校における1人1台端末の実現が急速に進んでいる。そこで、ICTの活用で授業の何が変わるのか、何を变えなければならないのか、という具体について講師による先進的な実践例紹介と実際のiPad体験により、教員自身が考え、実感できる場を提供する。

### 内容：

前半は乾氏による講演が行われた。2013年度より、近畿大学附属高校では、全生徒3,000名に1人1台iPadを導入している。しかし、活用制限をかけない「フリーインターネット」「フリーアプリ」による生徒への悪影響を危惧する反対意見が圧倒的多数の中で校長のリーダーシップの元、乾氏が進めてきた授業等での活用実績が参加者の心を惹き付けた。「生徒は未来からの留学生」「ICT機器が当たり前の世界で生き抜く力を」「iPad活用は生徒が手にする情報量が爆発的に増えること」「活用段階は①先生が指導のために②授業の中で生徒に使わせる③生徒が主体的に使う」「学びの成果は多彩なアウトプットをさせる」「授業中に生徒の使う『動詞』の種類を増やすこと」「学校じゃなければできないこと、みんながいなければやれないことを実現する学校づくりを」等々の言葉には説得力があった。多くの動画や生徒自身による成果物が紹介されたため、校種に関係なく大変わかりやすい内容でICTの教育効果の大きさを実感することができた。

後半は、乾氏と野本氏による実際に参加者一人一人がiPadを操作しながらのワークショップを行った。STEP①「Safari」で説明素材を集める。STEP②「Keynote」で解説資料を作る。STEP③「Keynote」で動画を作成する、であったが、iPadの扱いに慣れている院生もサポート役に回りながら、参加者と交流し、和気あいあいとした中で楽しく学ぶことができた。

質疑応答の後、乾氏がまとめられたが、iPadの活用による大きな教育効果が立証され、教員の業務の効率化にもつながっていることは確かだが、一方、それを使いこなしている生徒のニーズに応え、より効果的な活用を図るような授業構想を練るには、教師の情熱とエネルギーが必要であるという言葉が印象的だった。

### 成果：

事後アンケート結果は、「大変有意義だった」が、全体92.7%、講演会92.7%、ワークショップ85.7%と高い評価を得ることができた。実際に各地域・学校で導入される端末の機種は様々だが、本講演の内容がその前提となる時代背景、世界各国の状況、そして実績に基づく知見であったため、正に参加者各々がこれからの時代の教育を真剣に考えることができた。

感想・意見からは、「わかりやすい内容でワクワクした」「なぜ1人1台かの理解が一気に深まった」「学校を、教育を替えていかなければ、という使命と勇気をいただいた」「現場がいかに遅れているか、意識改革が必要だ」「学びを止めない未来の教育の大切さを感じた」等々、前向きな受け止めが多く見られた。

### アイデアや工夫したこと：

- ①（社）iOSコンソーシアムの全面的な協力でiPad55台を無償で借用でき参加者全員が体験できたこと。
- ②準備、運営全般で院生の関わりや活躍の場を意図的に数多くつかったこと。iPadの初期設定、ワークショップ補助、返却作業等、院生が主体的に取り組めた。
- ③コロナ禍での開催だったため、感染防止対策は徹底した。受付時の検温と消毒、参加者間の距離確保、指定席、iPad等の機材の事前・事後の消毒等により、無事終了できたこと。

<写真・図など> ※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真（寄って撮影またはトリミング）を撮影してください。



実践を兼ねた講義に参加者は全集中！



院生が参加者のサポートをしました



参加者同士協力し合いながらの実践